

(重修本草綱目啓蒙十六) 佛甲草 總名 マン。子。ン。グ。サ。ツ。ル。レ。ン。ゲ。イ。ツ。マ。デ。グ。サ。ス。テ。グ。サ。  
 丹波 イ。ハ。マ。キ。同上 ラ。ビ。キ。ヤ。シ。雄。泉州、大和、本草、宇ナシグサ。雌。大和、本草、ハマ、ウ。雄、紀州、播州、  
 州鷹 イ。ミ。リ。グ。サ。雄、豐前、  
 雌豫 イ。ミ。リ。グ。サ。雌、豐後、

雄名 イチゲサウ、本草 テンジンソステグサ、藝州ステグサ、紀州シテグサ、豫州シミキリグサ、筑前  
 チリナリ、南都タカウツメ、勢州龜山ホツトケグサ、山田ホトケグサ、内宮宇ナシカヅラ、和州江戸コン  
 ゴウ、防州ミズクサ、阿州センチンサウ、讃州ヒガンサウ、泉州マムシグサ、伯州イハノボリ、同上  
 ダグサ、越後マツガ子、彦根カラクサ、同上

雌名 イチクサ、三才マン子ジサウ、同上コマノツメ、勢州イチリクサ、津輕アエクサ、秋田コマメグ  
 サ、防州路旁陰處林下水側ニ多ク生ズ、雌ナル者ハ苗高サ六七寸叢生ス、葉細クシテ厚ク末尖リ、  
 長サ八九分、黃綠色三葉ゴトニ相對ス、莖ヲ切り捨テ枯レズ、自ラ根ヲ生ズ、四五月梢ニ花ヲ開ク、  
 五瓣黃色、大サ三分許、多ク枝ニ盈テ美ハシ、苗ハ冬ヲ經テ枯レズ、

雌ナル者ハ苗高サ二三寸、葉雄ナル者ヨリ狭小、長サ三分許、厚クシテ尖ラズ、葉密ニ攢リ生ズ、冬  
 ヲ經テ枯レズ、冬春ニ至リ葉紅紫色ニ染テ美ハシ、四五月花ヲ開ク、形色雄ナル者ニ同ジ、一種圓  
 葉ナル者アリ、葉大サ一二分、花ク形色モ同ジ、幽谷石上ニ生ズ、一種方葉ナル者ハミヅカルシト  
 呼ブ、一名ヤマヅタ、イハガ子サウ、葉大サ三四分甚厚シ、夏花ヲ開ク、形色ツルレンゲニ同ジ、

(増補地錦抄八) 岩蓮花

植分春秋岩の間々に土を少入て植る、肥には白水を節々かける。

(廣益地錦抄七) 佛甲草

葉冬は地に付てれんげのごとく、三月比より段々のびたちて、枯木岩に

とり付多く玄げり、五六寸ほど有、尺にたらぬ小草なり、四五月ごろ花きく、黃色小りんあいらし  
 く、ながめ有、秋のすゑよりかれて地に敷て、いはれんげのごとく、又玄ほらしくきくめい石、ある  
 ひは木石等にとり付て生る、一名佛指甲共云、又の名一夏草とも云、またつるれんげ共云、